

2023年2月28日

リ・ジェネレーション株式会社 御中

東京都台東区上野1丁目15番3号  
株式会社ナガホリ  
代表取締役社長 長堀 慶太

## 臨時株主総会に関する追加質問状（2）

前略 当社は、2023年3月16日に開催予定の臨時株主総会（以下「**本臨時株主総会**」といいます。）に関し、貴社ないし貴社代表者尾端友成氏（以下「**尾端氏**」といいます。）に関する事項や貴社が当社取締役を選任することを求めている尾端氏を含む4名の候補者の当社取締役としての資質・適格性に関連する事項等、本臨時株主総会での議案の審議に際して株主の皆様が判断するのに必要又は参考となると考えられる事項について、今月6日付けで質問状（以下「**臨時株主総会に関する質問状**」といいます。）をお送りしましたが、貴社代理人からの臨時株主総会に関する質問状に対する今月20日付け「回答書兼反論書」は、当社からの質問に対して正面から回答せず、抽象的な回答に留めるものや、合理的な理由もなく回答を拒絶するものが多数含まれ、更には、当社に対して逆に質問を行うことで自らの回答を回避しようとしているものもある等、株主の皆様ご判断するのに必要又は参考となる情報を提供するものとは到底評価できないものであったことから、改めて今月27日付けで「臨時株主総会に関する追加質問状（1）」を送付致しました。

これに加えて、直近で新たに当社の大株主となったことが判明した人物ないし法人（及びそれら人物ないし法人の関係者）と貴社ないし尾端氏との関係性について検証・検討した結果、本臨時株主総会での議案の審議に際して株主の皆様が判断するのに必要又は参考となると考えられる事項として、以下の質問事項についても、ご回答を頂く必要があると考えるに至りましたので、本質問状を送付致します。

この点、既にご案内のこととは存じますが、経済産業省経済産業政策局（「公正な買収の在り方に関する研究会」事務局）が今月22日に公表した「公正な買収の在り方に関する意見・情報の募集 ～これまでの議論から見えてきた主な論点～」3（2）においても、上場企業の買収をしようとする者（これは経営支配権の取得を企図する者にも当然に当てはまります。）による情報提供・情報開示について、「買収が対象会社の一般株主やステークホルダーに与える影響、その他企業価値に及ぼす影響に関する情報を開示すべき」・「買収提案をした場合はもとより、現に買収提案をしていない状況においても、対象会社が買収の可能性を認識し、対話のため事実確認をしようとした場合には、株主は実質株主や協調行為をとる者等（共同保有者の定義に限らない）の事実確認に応じるべき」

との考え方が示されていますが、貴社の提案されている議案は、貴社が**本臨時株主総会において当社の経営支配権の取得を企図されていると評価できるものであって、貴社に対する下記質問は、まさに上記考え方と同様の見地から行っているもの**に他なりません。従って、貴社が当社の経営支配権の取得を企図されている以上、以下の各質問に対して、真摯に且つ正面からお答えいただくことは、本臨時株主総会において当社株主の皆様がどのように議決権を行使されるかをご判断いただくために必須であると確信しております。

なお、繰り返しにはなりますが、念のため付言いたしますと、当社と致しましては、当社の質問及び貴社のご回答そのものを公表することで、当社の解釈や要約の正確性の問題を惹起せずに情報を開示することができることから、投資家の投資判断に重要と思われる事項として、貴社とのやり取りについても継続的に開示しており、本書面及びご回答に関しても、従前と同様に当社が公表致しますので、予めご承知おきください<sup>1</sup>。さらに、当社の質問状及び貴社の回答書等の開示は、東京証券取引所における適時開示としてではなく、当社ウェブサイトによる任意開示として行う予定であり、ご回答の内容（或いは未回答であればその事実）について、場合によっては金融当局や証券当局及び当社が株主管理の一環で把握している貴社の取引金融機関等に対して情報提供を行う可能性がございます。

以下、特に断りのない限り、当社のこれまでの書面にして使用した略語を本書面においてもそのまま使用させていただきます。また、本書面につきましても、本臨時株主総会までの時間が限られていることに鑑み、引き続き、ファクシミリにて送信した書面を正式書面とさせていただきます。

## 記

### 1 光大證券投資服務（香港）有限公司について

今月14日を基準日とする本臨時株主総会のための当社株主名簿（以下「**本株主名簿**」といいます。）では、2022年9月末現在の当社株主名簿には現れていなかった「SCBHK AC EVERBRIGHT SECURITIES INVESTMENT SERVICES (HK) LIMITED-CLIENT AC」なる名義が、当社株式632,100株（持株割合3.77%）を保有している旨の記録がありますが、かかる名義の記載からは、その実質株主は、Everbright Securities Investment Services (HK) Limited（中国語名は、光大證券投資服務（香港）有限公司。以下「**光大證券**

<sup>1</sup> 貴社からも、2022年7月14日付け「要望書」以降、当社ホームページでの開示をご要請頂いており、このような公表についてはご了承頂けると理解しております。

投資」といいます。) であると考えられます。光大證券投資は、公開情報によれば、その完全親会社はChina Everbright Securities International Company Limited (中国語名は、中國光大證券國際有限公司。商号変更前の旧商号は、EVERBRIGHT SUN HUNG KAI COMPANY LIMITED。以下「**EVERBRIGHT SUN HUNG KAI**」) といっています。) であるとともに、商号変更前の旧商号がSUN HUNG KAI INVESTMENT SERVICES LIMITED であると認識しています。

そして、EVERBRIGHT SUN HUNG KAIは、従前、Sun Hung Kai & Co. Limited (中国語名は、新鴻基有限公司。以下「サンフンカイ」) といっています。) の完全子会社であったところ、サンフンカイは、2015年にEVERBRIGHT SUN HUNG KAIの発行済株式の70%をEverbright Securities Company Limitedの完全子会社であるEVERBRIGHT SECURITIES FINANCIAL HOLDINGS LIMITEDに譲渡した旨を公表していますが、サンフンカイグループであると自ら開示しているアジア開発キャピタル株式会社 (以下「**アジア開発キャピタル**」) といっています。なお、その完全子会社であったアジアインベストメントファンド株式会社は、当社の株主です。) の開示情報によれば、(光大證券投資の完全親会社である) EVERBRIGHT SUN HUNG KAIは、現在もサンフンカイグループの企業とされています。

当社は、これまでに収集した情報から、サンフンカイグループと (2021年までアジアゲートHDの筆頭株主であった普濟堂を実質的に支配していた) 許振東氏とは密接な関係にあると認識しており、貴社に対する質問状(10)でも質問致しましたとおり、後記2の金山エネルギー (本株主名簿上の持株割合は1.14%) が当社株式を急速に買い上げるのと並行してEVERBRIGHT SUN HUNG KAIが、2022年9月末以降、大量の当社株式を取得していることは、同年9月末以降当社株式の株価が異常に急騰する中での買付けであって、投資として著しく経済合理性を欠いていると考えざるを得ないこと等も含めて、当社としては、サンフンカイ関係者と貴社ないし貴社代表者との間には一定の関係ないし意思の連絡があり、それに基づいて、貴社と許振東氏らとの間で当社の経営支配権の取得に向けて協調行動をとられているのではないか、もしそうであれば、貴社は、許振東氏らを「共同保有者」とする大量保有報告書の変更報告書を提出すべきことになるのではないか等と懸念しております。

そして、仮にそのような懸念が現実のものである場合には、サンフンカイのグループ企業であるEVERBRIGHT SUN HUNG KAIについても、貴社と許振東氏らとの間で協調行動をとられているのではないか、もし、そうであれば、貴社は、許振東氏らだけでなく、現在当社の3.77%の株式を実質保有するEVER

BRIGHT SUN HUNG KAIをも「共同保有者」とする大量保有報告書の変更報告書を提出すべきことになるのではないかと懸念しております。

また、そのことをさて措くとしても、貴社が本臨時株主総会において、当社取締役を全て入れ替え、当社の経営支配権を取得する意思を明確にされた以上、貴社が当社の経営支配権の取得を企図されるに際して、どのような株主と協調されているのかは、当該経営支配権取得後における当社の経営の方向性を推し量る上でも、当社の一般株主の皆様にとって重大な関心事であることは明らかです。従って、かかる懸念や当社の一般株主の皆様のご関心に鑑み、以下の光大証券投資関係者との関係の有無及び関係がある場合には、その詳細についてご説明ください。

- ① 光大証券投資
- ② EVERBRIGHT SUN HUNG KAI
- ③ アジア開発キャピタル
- ④ (現在、アジア開発キャピタルの子会社であって、2021年2月まで下記2の金山能源集团有限公司の子会社<sup>2</sup>がその筆頭株主であり、現在も当該子会社が第2位株主<sup>3</sup>である) ワンアジア証券

## 2 金山エネルギーについて

貴社に対する質問状(10)で既に質問致しましたとおり(ご参考までに、該当部分の抜粋を、【別紙】として本追加質問状(2)の末尾に添付致します。ちなみに、【別紙】記載の質問につき、遺憾ながら貴社は一切回答されていません。)、①2022年9月末以降に当社株式を急速に買い上がり、本株主名簿上の持株割合が1.14%に達している金山エネルギーは、(a)許振東氏がかつてトップ(主席)であった金山能源集团有限公司のグループ会社であって、(b)金山能源集团有限公司の株式の22.09%を実質的に保有しているのは許振東氏の娘である許夢然氏であり、(c)その設立時(2018年5月)の代表が許振東氏と親密な李堅氏であること、(d)同社の唯一の代表取締役である立花恵美氏が取締役を兼任している株式会社恒潔は、その代表取締役が許振東氏と親密な関係にあると報道されているだけでなく、許振東氏の自宅住所を購入した会社であること等から、許振東氏の強い影響下にある会社であることが窺えます。この許振東氏が、布山氏がその完全子会社であるNC Max Worldの社長を務めているアジアゲートHDと深い繋がりを有していることは、当社が繰り返し指摘してきたところです。また、②後記5で触れますが、貴社と同時期に当社株式を買い上げてきた株主の中には、2021年まで許振東氏が実質支配する普濟堂が筆頭株主であったアジアゲートHDの大株主が数多く含まれており(因

<sup>2</sup> KING STONE (INTERNATIONAL) HOLDINGS LIMITED.

<sup>3</sup> 2022年3月末日現在で持株割合0.12%(後掲の【参考資料3】参照)。

みに、本株主名簿においては、その普濟堂も、持株割合0.19%の当社大株主として登場しています。）、本株主名簿においても依然としてそれらのうち多くが依然として当社の大株主であることに鑑みると、貴社と許振東氏との間に当社株式の買い上がりを巡って何らかの関係ないし意思の連絡があるのではないかと疑いを払拭できません。さらに、③前記1のとおり、2022年9月末以降当社株式の株価が異常に急騰する中で一貫して当社株式の買い上がり続けている金山エネルギーの投資行動は、投資として著しく経済合理性を欠いていると考えざるを得ません。

なお、許振東氏の経歴やその支配する法人等に関しては、詳細は、2019年12月7日付け中国経営報（中国经营报）の「许振东东瀛漂流记」をご覧ください（当社HPに本追加質問状（2）の参考文書として中国経営報の転載許可を得てその記事全文のPDFとその当社による和訳とを転載しております。なお、類似の内容が記載された写真入りの記事も存在しますので、これについても、株主の皆様にご提供する予定です。）。

以上の①～③に加えて、④これまでに繰り返しご質問してきた貴社と布山氏との関係に照らして、当社としては、許振東氏を含む金山エネルギー関係者と貴社ないし貴社代表者との間には一定の関係ないし意思の連絡があり、それに基づいて、貴社と金山エネルギーとの間で当社の経営支配権の取得に向けて協調行動をとられているのではないかと、もし、そうであれば、貴社は、現在当社の1.14%の大株主である金山エネルギーを「共同保有者」とする大量保有報告書の変更報告書を提出すべきことになるのではないかと懸念しております。かかる懸念は、前記1のとおり、許振東氏と関係が深いサンフンカイグループに属する光大証券投資が、2022年9月末以降、当社株式を大量に取得（持株割合にして3.77%相当）するに至ったことで、一層深まっております。

また、上述のとおり、貴社が当社の経営支配権の取得を企図されるに際して、どのような株主と協調されているのかは、当該支配権取得後における当社の経営の方向性を押し量る上でも、当社の一般株主の皆様にとって重大な関心事であることは明らかです。

従って、かかる懸念や当社の一般株主の皆様のご関心に鑑み、以下の金山エネルギー関係者との関係の有無及び関係がある場合には、その詳細についてご説明ください。

- ① 金山エネルギー
- ② 立花恵美氏（金山エネルギー代表取締役、恒潔取締役）
- ③ 関栄光氏（金山エネルギー取締役、前ワンアジア証券専務取締役）
- ④ 恒潔（許振東氏の自宅を所有）
- ⑤ 許振東氏
- ⑥ 李堅氏（金山エネルギーの設立時の代表取締役）

- ⑦ 普濟堂（2021年10月までのアジアゲートHDの筆頭株主）
- ⑧ 官健氏（恒潔の代表取締役、許振東氏の妻との報道）

なお、許振東氏及び金山エネルギーを始めとするその関係者、サンフンカイグループ、当社の大株主となっているアジアゲートHDの大株主等の関係については、当社HPに本日付けでアップロードする【**臨時株主総会に関する追加質問状（2）参考図**】をご覧ください。

### 3 村田武彦氏及び林宣彦氏について

本株主名簿において当社株式214,100株（持株割合1.28%）を保有している村田武彦氏は、2022年9月末までの当社株主名簿には株主として記載がなかったところ、今回、突如として大株主として出現されています。

この村田武彦氏については、①貴社に対する質問状（6）記載のとおり、自身のTwitterでナガホリ株式の買いを繰り返し煽っていたウルフ村田こと村田美夏氏の実父であり、②2021年まで許振東氏が実質支配する普濟堂が筆頭株主であったアジアゲートHDにおいて現在第7位株主（持株割合1.39%）<sup>4</sup>であるだけでなく、③上記のとおり、1.28%もの大量の当社株式を光大證券投資（EVERBRIGHT SUN HUNG KAI）及び金山エネルギーと同様に当社株式の株価が異常に急騰する中で買い上がっている等の経緯から、上記株式取得に関しては、貴社との間に何らかの意思連絡があったのではないかと合理的に疑わざるを得ないところです。また、④村田美夏氏の投資セミナーを主催し、2022年3月末時点で当社株式15,900株を保有される当社株主として、尾端氏も出席された昨年6月開催の当社定時株主総会に出席され、ご自身は当社が資料として公表した当社株式取得者の関係図に掲載されていないにも拘らず、なぜか関係図の恣意性や信憑性について繰り返し質問されていた林宣彦氏も、本株主名簿において引き続き当社株式400株を保有しているところ。

貴社からは、村田美夏氏との間で面識がない旨の回答を既に頂いているところではありますが、上述のとおり、貴社が当社の経営支配権の取得を企図されるに際して、どのような株主と協調されているのかは、当該支配権取得後における当社の経営の方向性を推し量る上でも、当社の一般株主の皆様にとって重大な関心事であることは明らかですので、上記経緯に鑑み、改めて、村田武彦氏及び林宣彦氏との関係の有無及び関係がある場合には、その詳細についてご説明ください。

<sup>4</sup> アジアゲートHDの2022年12月15日付け第77回定時株主総会招集通知11頁。



[Redacted text block]

5 アジアゲートHDの大株主のその他関係者について

前記3のとおり、本株主名簿上、当社株式214,100株（持株割合1.28%）を保有している村田武彦氏は、直近の2022年9月末現在におけるアジアゲートHDの第7位の大株主（同1.39%）でもあります。同様に、本株主名簿上、当社株式410,000株（持株割合2.44%）を保有している鶴田亮司氏は、上記2022年9月末現在におけるアジアゲートHDの第9位の大株主（同1.30%）でもあります。因みに、2021年10月までアジアゲートHDの筆頭株主であった普濟堂も、本株主名簿において、当社株式31,900株（持株割合0.19%）を保有する当社大株主として登場しています。

さらに、2022年3月末現在では、以下のとおり、上記鶴田亮司氏を含む数多く

8 [Redacted footnote text]



のアジアゲートHDの大株主が、当社株式を大量に保有していました（同月現在の株式保有状況については、発行済株式総数から自己株式の数を控除した数を分母して計算した議決権割合の近似値<sup>9</sup>（以下「**所有割合**」といいます。）で表示）。

- ① 当時も現在もアジアゲートHDの筆頭株主（所有割合は20.28%で不変）であるアクセスアジア株式会社（以下「**アクセスアジア**」といいます。）の代表取締役であり、かつ、アジアゲートHDの第5位→第3位の大株主である占（山本）永海氏（所有割合は2.30%で不変）は、当社の2022年3月末時点の株主名簿上、当社株式105,700株（所有割合0.69%）を保有（大株主順位25位）
- ② 当時も現在もアジアゲートHDの第2位の大株主である劉燕（LIU YAN）氏（所有割合は3.77%から4.28%に増加）は、当社の2022年3月末時点の株主名簿上、当社株式40,000株（所有割合0.26%）を保有（大株主順位44位）
- ③ アジアゲートHDの第4位→第5位の大株主（所有割合は2.83%から1.96%に減少）である江川源氏は、当社の2022年3月末時点の株主名簿上、当社株式51,400株（所有割合0.34%）を保有（大株主順位40位）
- ④ アジアゲートHDの第6位→第4位の大株主である黄俊利氏（所有割合は1.96%から2.17%に増加）は、当社の2022年3月末時点の株主名簿上、20,000株（所有割合0.13%）を保有（大株主順位63位）
- ⑤ アジアゲートHDの第8位→第6位の大株主（所有割合は1.43%で不変）であって上記③の江川源氏の妻である江川麗子氏は、当社の2022年3月末時点の株主名簿上、当社株式40,000株（所有割合0.26%）を保有（大株主順位43位）
- ⑦ 当時も現在もアジアゲートHDの第9位の大株主である上記の鶴田亮司氏（所有割合は1.30%で不変）は、当社の2022年3月末時点の株主名簿上では、当社株式365,200株（所有割合2.38%）を保有（大株主順位13位）

なお、2022年3月末当時においても、村田武彦氏はアジアゲートHDの第3位の大株主（所有割合3.69%）でしたが、当社の2022年3月末時点の株主名簿上では、当社株式は保有していませんでした。

そして、前記**1**から**4**までに記載のとおり、本株主名簿上、従前は当社株主ではなかった、許振東氏及びアジアゲートHDと繋がりが深い者が複数当社の大株主として登場してきておりますが、これらの者は、上記①～⑦に記載のとおり、現在もアジアゲートHDの大株主である者と入れ替わるようにして当社株式を買い上がってきています。

<sup>9</sup> 議決権割合の計算に当たっては、単元未満株式を考慮する必要があるが、単元未満株式数は変動するため、以下、この近似値を用いる。

然るに、2022年3月末現在の当社株主名簿においては、その時点におけるアジアゲートHDの大株主10名中7名（アクセスアジアと占永海氏を2名とカウントすれば8名）が当社の大株主として登場し、本株主名簿においても、直近の2022年9月時点におけるアジアゲートHDの大株主10名中2名が当社の大株主として登場するというような事態が、偶然に生じることは、常識的に考えてあり得ないように思われます。

また、布山氏に対するNC MAX WORLD株式の譲渡代金の資金調達のためにアジアゲートHDが行った大量の新株及び新株予約権の第三者割当発行をが引き受けた際に（の払込み完了後のアジアゲートHDについての株券等保有割合は30.18%）に払込資金を提供した<sup>10</sup>森本浩行氏が代表取締役を務める株式会社吉野森久銘木店（以下「吉野森久銘木店」）といいます。）は、2022年3月末現在の当社株主名簿においては、当社株式52,000株（所有割合0.34%）を保有する第39位の大株主であり（但し、本株主名簿においては株主として登場せず。）、さらに、同社の取締役である森本昌清氏（上記森本浩行氏の長男<sup>11</sup>）は、2022年3月末現在の当社株主名簿においては、当社株式105,000株（所有割合0.68%）を保有する第26位の大株主であって、その後、いったん当社株式を全て売却されていたものの、本臨時株主総会の開催が決定した後の本年2月3日以降に再び当社株式を買い上がり、本株主名簿においては、当社株式130,800株（持株割合0.78%）を保有するに至っております。

このように、2021年まで許振東氏が実質支配する普濟堂が筆頭株主であったアジアゲートHDの大株主やその大株主の親密先及びアジアゲートHDの子会社の社長である布山氏が、多数同時期に当社の株式を買い上がり、現在も、そのうち複数の者が当社株式を少なからず保有しているという事態は、常識的に、およそ偶然に生じるとは考えられません。従って、貴社と、アジアゲートHDの大株主やその大株主の親密先及びアジアゲートHDの子会社の社長である布山氏との間には、当社株式の取得や当社の経営支配権の取得に関して、何らかの意思連絡がなされているのではないかと合理的に疑わざるを得ません。

繰り返しになりますが、上述のとおり、貴社が当社の経営支配権の取得を企図されるに際して、どのような株主と協調されているのかは、当該支配権取得後における当社の経営の方向性を推し量る上でも、当社の一般株主の皆様にとって重大な関心事であることは明らかなです。従って、上記のアジアゲートHDの大株主やその親密先等の

<sup>10</sup> に対して、極度額5億円の融資証明書を発行し、2021年11月22日付けで無担保・無保証で5億円の金銭消費貸借契約を締結（アジアゲートHDの2021年12月7日付け「第三者割当による新株式及び第6回新株予約権の発行に関するお知らせ」18頁参照）。

<sup>11</sup> 前掲（注10）のアジアゲートHDの2021年12月7日付け「第三者割当による新株式及び第6回新株予約権の発行に関するお知らせ」18頁参照。

うち、少なくとも現在当社の株式を大量に保有されている以下の方々（普濟堂については前記**2**、村田武彦氏については前記**3**においてそれぞれ既に質問しているため省略）との関係の有無及びもし関係がある場合には、その詳細について改めてご説明ください。

- ① 布山氏
- ② 鶴田亮司氏
- ③ 森本昌清氏

草々

## 【別紙】

### 質問状（10）からの抜粋

（参考資料の記載のみ補充）

〔前略〕

（8）当社株式を新たに急速に買い上がっている金山エネルギー等との関係について

2022年10月27日にプレスリリースしましたとおり、当社の株価は現在不自然に急騰しているところですが、その中で、金山エネルギー株式会社（以下「金山エネルギー」といいます。）なる会社が、本年9月末前後から当社株式を急速に買い増していることが判明しています。

具体的には、金山エネルギーは当社の2022年9月末名簿で初めて登場していますが（同日現在は31,900株を保有し、第48位株主）、その後も当社株式を急速かつ継続的に買い増しており、10月27日現在では9月末の4倍以上（105,800株増加）の137,700株（株券等保有割合にして約0.82%）を保有するに至っています。当社の2022年10月27日付けプレスリリース「当社株式の不自然な株価高騰について」で指摘しているとおり、当社株式の株価は同日終値で1642円（高値で1716円）を付けており、10月に入ってからの僅か3週間余りの間に約2倍、金額にして836円、直近1週間程度の間には約1.5倍、金額にして538円も株価が上昇しており、短期間で異常な急騰を続けているところ、それにも拘らず、一貫して当社株式の買い上がり続けている金山エネルギーの投資行動は、経済合理性に著しく欠けていると考えざるを得ず、何らかの背景があつてこのような急速な買い上がり続けているものと合理的に推測されます。

然るところ、この金山エネルギーについては、当職らが調査したところでは、以下の事実が判明しております。

ア 唯一の代表取締役である立花恵美氏

同社の唯一の代表取締役である立花恵美氏は、株式会社恒潔（以下「恒潔」といいます。）の取締役でもあるところ、この恒潔については、2015年1月7日に、濰坊北大青島華光科技股份有限公司の2007～2012年の決算報告書で実質支配者に関する情報を開示せず、2012年決算につき関連当事者取引に関する情報を開示せず、利益等を水増ししたとして中国証券監督管理委員会（CSRC）により罰金30万元と10年間の証券市場参加禁止処分を課された許振東氏が実質支配していると繰り返し報道されています。例えば、2021年2月27日付けアクセスジャーナル誌記事「わが国仕手グループとも接点——中国市場追われた許氏の自宅（！？）から見える繋がり」では、以下のとおり報道され

ているところです。

- ・ 関係者によれば許氏が以前は間違いなく自宅として使っていた東京都港区神宮前の不動産（建物表示は現在も「許」としか出ていない）を2018年4月に購入したのは恒潔
- ・ 恒潔の代表は許氏との間に子どもを持つ中国人女性（少なくとも以前は、許氏はこの女性と子どもと住んでいた）
  - ※ なお、当職らで商業登記を確認したところ、恒潔の代表取締役はカンケン（官健）氏とシュティエンション氏の2名でしたが（取締役は立花氏を加えた全3名）、シュティエンション氏は2021年7月19日付けで代表取締役も取締役も辞任されているようです。
  - ※ 「アクセスジャーナル」誌に限らず、FACTA2021年5月号67頁の「『ボロ株』アジア開発キャピタルに中国『怪人脈』」では、許振東氏が2017年11月に設立した恒潔の代表取締役は中国から呼び寄せた親密女性であることが報道されています。
- ・ 恒潔の取締役の立花氏は、関係者によれば、許氏の日本語通訳を兼ねた秘書であり、金山エネルギーというエネルギー関連のコンサルタント代表
  - ※ 2019年12月7日付け中国経営報（中国经营报）の「许振东东瀛漂流记」（<http://www.cb.com.cn/index/show/bzyc/cv/cv13438311641>）も参照。
- ・ 金山エネルギーの設立時（2018年5月）代表は李堅氏
  - ※ この李堅氏については、「アクセスジャーナル」誌に限らず、許振東氏と親密であるとの報道が、様々なメディアにおいて複数なされているところです（例えば、FACTA2021年5月号67頁の「『ボロ株』アジア開発キャピタルに中国『怪人脈』」、ZAITEN2019年11月号78～79頁の「LCHDと廣濟堂で交錯する『中国闇金脈』」、2019年8月28日付け夕刊フジ4頁記事「大揺れ廣濟堂火事場攻防戦②株式買い占めにラオックス・羅怡文社長の影 参戦するアジアゲートHDも関係先か」、2019年12月7日付け中国経営報（中国经营报）の「许振东东瀛漂流记」（<http://www.cb.com.cn/index/show/bzyc/cv/cv13438311641>）等）。

なお、LinkedInで検索したところ、立花恵美氏と同姓同名と考えられる人物（Emi Tachibana）が、アジア開発キャピタル株式会社（以下「アジア開発キャピタル」といいます。）の子会社であって、かつて許振東氏が実質支配していたとの報道が複数存在しているワンアジア証券株式会社（以下「ワンアジア証券」といいます。）に2017年1月から所属していることが確

認されています。

イ もう1名の取締役である関栄光氏

関栄光氏は、①ワンアジア証券の前専務取締役であり（ワンアジア証券の2021年3月期業務及び財産の状況に関する説明書3頁。【参考資料2】参照）、②許振東氏が実質支配していると繰り返し報道されている普濟堂株式会社（以下「普濟堂」といいます。例えば、2021年9月30日付けFACTA ONLINE記事「東京機械株買い占め劇に新事実／アジア開発「新株」が闇に消えた謎／あの中国人投資家が利益か」、ZAITEN2019年11月号78～79頁の「LCHDと廣濟堂で交錯する『中国闇金脈』」等）が第3位株主（持株割合6.75%）となっているグローム・ホールディングス株式会社（以下「グローム」といいます。）の前取締役であること（グロームの第28回定時株主総会招集ご通知39頁）、③2017年に、許振東氏がかつてトップ（主席）を務めていた香港上場のIT企業である北京北大青島環宇科技股份有限公司に入社し、投資事業部マネージング・ディレクターを務めていたことが確認されています。

ウ 金山エネルギーの本店所在地、資本構成等

金山エネルギーの本店所在地は、上記恒潔の本店所在地と同じ東京都千代田区丸の内1-8-2鉄鋼ビルディング4階であることが確認されています。

また、金山エネルギーは、北京大学青島集団のグループ会社である金山能源集団有限公司（英文名称はKing Stone Energy Group Limited。香港メインボード市場上場）の開示資料等によれば、その100%子会社である金山能源（國際）控股有限公司（英文名称はKing Stone（International）Holdings Limited）の100%子会社ですが（なお、金山能源集団有限公司の2021年Annual Report（[https://files.services/files/650/2022/0429/20220429161501\\_66841926\\_en.pdf](https://files.services/files/650/2022/0429/20220429161501_66841926_en.pdf)）を見ると、金山エネルギーの英文名称はKing Stone Energy Corporationとのことですが、同社のホームページをみると、King Stone Energy Incと表記されており、いずれにせよ、名称からしてもグループ会社であることは明らかです。）、許振東氏はかつて金山能源集団有限公司のトップ（主席）であったこと（金山能源集団有限公司の2013年7月22日付けプレスリリース等参照）が確認されています。また、金山能源（國際）控股有限公司は、2021年2月にアジア開発キャピタルとワンアジア証券とが包括的資本業務提携を公表するまで同証券の筆頭株主（持株割合35.76%）であって、同時期に、現在布山高士氏（以下「布山氏」といいます。）がその子会社の代表取締役社長を務めている株式会社

アジアゲートホールディングス（以下「アジアゲートHD」といいます。）がワンアジア証券の第5位株主となっていたところです（持株割合8.12%。以上につき、【参考資料1】及びアジア開発キャピタルの2021年2月15日付け「ワンアジア証券株式会社との包括的業務提携に関する基本合意のお知らせ」参照<sup>12)</sup>）。

さらに、金山エネルギーの実質的な100%親会社（祖父会社）である金山能源集团有限公司については、その開示資料（「股権披露」）において、その2022年10月30日現在の実質主要株主として、同社株式の22.09%を直接所有する株主であるGoldsino Investments Limitedを100%支配している者として許夢然（Xu Mengran）氏が記載されており、同氏は、許振東氏の娘と報じられているところです（2022年4月7日付け「アクセスジャーナル」誌記事「『アジアゲート』のM&A詐欺疑惑—あの能勢氏代表『東京フィナンシャル』も関与」やFACTA2022年4月号59頁の「アジア開発vs東京機械の裏で不穏な『玉移動』」参照）。また、金山能源集团有限公司の2022年10月30日現在の実質主要株主には、許夢然（Xu Mengran）氏に加えて、同社株式の30.11%を直接所有する株主であるBelton Light Limitedを100%支配している者として、許振東氏がかつてトップを務めていた北京大学青島グループ傘下のファンドであるJade Bird Energy Fund II, L.P.の名前を確認することができます（アジア開発キャピタルの2021年2月15日付け「ワンアジア証券株式会社との包括的業務提携に関する基本合意のお知らせ」も参照）。

なお、金山能源集团有限公司については、2021年11月19日時点まではアジアゲートHDがその13.66%を保有する主要株主として登場していたことも確認できるところです（同社に関するShareholding Disclosures参照）。

ちなみに、上記Goldsino Investments Limitedは2021年2月15日現在においてはアジアゲートHDの100%出資子会社とされていた（アジア開発キャピタルの2021年2月15日付け「ワンアジア証券株式会社との包括的業務提携に関する基本合意のお知らせ」参照）ところ、アジアゲートHDの2022年9月期（第77期）第一四半期報告書12頁によれば、同四半期において同社の連結範囲から除外されているため、同四半期（2021年10月1日～12月31日）中にアジアゲートHDから上記許夢然氏に

<sup>12)</sup> 本文中に記載のワンアジア証券における持株割合は、アジア開発キャピタルの2021年2月15日付け「ワンアジア証券株式会社との包括的業務提携に関する基本合意のお知らせ」に記載の数値ですが、【参考資料1】上の2020年3月期末の持株割合は、金山能源（国際）控股有限公司が26.41%、アジアゲートHDが9.30%でした。

譲渡されたものと合理的に推測されるほか、上記でアジアゲートHDが13.6%を保有しているとされていた金山エネルギー集团有限公司の株式は、布山氏からアジアゲートHDに対するNC Max World株式の譲渡対価の一部として同氏に対して交付された旨報じられています（FACTA2022年4月号59頁の「アジア開発vs東京機械の裏で不穏な『玉移動』」）。

これに加えて、金山エネルギーの設立時の唯一の取締役は、上述のとおり、許振東氏と親密であって様々な案件で協調・協働していると報じられている李堅氏であったことも判明しています。

以上を踏まえますと、①金山エネルギーは、布山氏がその子会社であるNC Max Worldの社長を務めているアジアゲートHDと繋がりが深い許振東氏の強い影響下にあることが窺われます。また、②ここで敢えて明示はしませんが、貴社と同時期に当社株式を買い上げてきた株主の中には、2021年まで許振東氏が実質支配する普濟堂が筆頭株主であったアジアゲートHDの大株主が数多く含まれており、貴社と許振東氏との間に当社株式の買い上げを巡って何らかの意思の連絡があるのではないかとの疑いを払拭できないこと、③上記のとおり、2022年9月末以降当社株式の株価が異常に急騰する中で一貫して当社株式の買い上げを続けている金山エネルギーの投資行動は経済合理性に著しく欠けていると考えざるを得ないことに加えて、④これまでにご質問してきた貴社と布山氏との関係に鑑みれば、当社としては、許振東氏を含む金山エネルギー関係者と貴社ないし貴社代表者との間には一定の繋がりがあり、その関係に基づき、貴社と金山エネルギーとの間で協調行動をとられているのではないかと、もし、そうであれば、貴社と金山エネルギーとは「共同保有者」として大量保有報告書の変更報告書の提出が必要となるのではないかと懸念しております。従って、かかる懸念に鑑み、以下の金山エネルギー関係者との関係の有無及び関係がある場合には、その詳細についてご説明ください。

- ① 金山エネルギー
- ② 立花恵美氏
- ③ 関栄光氏
- ④ 恒潔
- ⑤ 許振東氏
- ⑥ 李堅氏
- ⑦ ワンアジア証券

[以下略]



【参考資料 1】

ワンアジア証券株式会社

「業務および財産の状況に関する説明書」 2020年3月期（3頁）

[https://www.one-asia.co.jp/pdf/comp\\_20200703.pdf](https://www.one-asia.co.jp/pdf/comp_20200703.pdf)

2020年

4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

| 氏名又は名称   | 保有株式数 (株) | 割合 (%) |
|--|-----------|--------|
| 1. KING STONE (INTERNATIONAL) HOLDINGS LIMITED | 105,000   | 26.41  |
| 2. CRYSTAL KIRIN LIMITED                       | 68,000    | 17.10  |
| 3. LUCKY VIBE LIMITED                          | 67,000    | 16.85  |
| 4. 株式会社朝陽                                      | 60,000    | 15.09  |
| 5. 株式会社アジアゲートホールディングス                          | 37,000    | 9.30   |
| 6. 中島 一彦                                       | 15,000    | 3.77   |
| 7. 中文産業株式会社                                    | 14,000    | 3.52   |
| 8. 藤井 正晴                                       | 11,340    | 2.85   |
| 9. 後藤 哲二                                       | 7,000     | 1.76   |
| 10. 山本 麻記子                                     | 2,800     | 0.70   |
| その他 (29 名)                                     | 10,300    | 2.59   |
| 計 39 名   | 397,440   | 100.00 |

5. 役員（外国法人にあっては、国内における代表者を含む。）の氏名又は名称

| 役職名   | 氏名又は名称 | 代表権の有無 | 常勤・非常勤の別 |
|-------|--------|--------|----------|
| 代表取締役 | 藤井 正晴  | 有      | 常勤       |
| 取締役   | 関 栄光   | 無      | 常勤       |
| 取締役   | 清水 冬生  | 無      | 常勤       |
| 取締役   | 徐 柱良   | 無      | 非常勤      |
| 取締役   | 葉 永威   | 無      | 非常勤      |
| 監査役   | 尾口 光雄  | 無      | 非常勤      |
| 監査役   | 王 偉    | 無      | 非常勤      |
| 監査役   | 李 道偉   | 無      | 非常勤      |

**【参考資料2】**

ワンアジア証券株式会社

「業務および財産の状況に関する説明書」2021年3月期（3頁）

[https://www.one-asia.co.jp/pdf/comp\\_20210630.pdf](https://www.one-asia.co.jp/pdf/comp_20210630.pdf)**2021年**

## 4. 株式の保有数の上位10位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

| 氏名又は名称   | 保有株式数（株）   | 割合（%）   |
|--|------------|---------|
| 1. アジア開発キャピタル株式会社                              | 10,750,000 | 95.93%  |
| 2. KING STONE (INTERNATIONAL) HOLDINGS LIMITED | 162,800    | 1.45%   |
| 3. CRYSTAL KIRIN LIMITED                       | 68,000     | 0.60%   |
| 4. LUCKY VIBE LIMITED                          | 67,000     | 0.59%   |
| 5. 株式会社 朝陽                                     | 60,000     | 0.53%   |
| 6. 株式会社P&C                                     | 37,000     | 0.33%   |
| 7. 中島 一彦                                       | 15,000     | 0.13%   |
| 8. 中文産業株式会社                                    | 14,000     | 0.12%   |
| 9. 藤井 正晴                                       | 12,140     | 0.10%   |
| 10. 後藤 由利子                                     | 7,000      | 0.06%   |
| その他（28名）                                       | 12,300     | 0.10%   |
| 計 38名  | 11,205,240 | 100.00% |

## 5. 役員（外国法人にあつては、国内における代表者を含む。）の氏名又は名称

| 役職名     | 氏名又は名称 | 代表権の有無 | 常勤・非常勤の別 |
|---------|--------|--------|----------|
| 代表取締役社長 | 小杉 裕   | 有      | 常勤       |
| 取締役副社長  | 鬼木 康男  | 無      | 常勤       |
| 専務取締役   | 関 栄光   | 無      | 常勤       |
| 取締役     | 葉 永威   | 無      | 非常勤      |
| 監査役     | 李 道偉   | 無      | 非常勤      |
| 監査役     | 寺西 功   | 無      | 非常勤      |

**【参考資料3】**

ワンアジア証券株式会社

「業務および財産の状況に関する説明書」2022年3月期（2頁）

[https://www.one-asia.co.jp/pdf/comp\\_20220720\\_02.pdf](https://www.one-asia.co.jp/pdf/comp_20220720_02.pdf)

2022年

## 4. 保有株式数上位10位までの株主の状況

| 氏名または名称                                     | 保有株式数 (株)   | 議決権の数の割合 |
|---|-------------|----------|
| 1. アジア開発キャピタル株式会社                           | 132,750,000 | 99.65%   |
| 2. KING STONE (INTERNATIONAL) HOLDINGS Ltd. | 162,800     | 0.12%    |
| 3. CRYSTAL KIRIN Ltd.                       | 68,000      | 0.05%    |
| 4. LUCKY VIBE Ltd.                          | 67,000      | 0.05%    |
| 5. 株式会社 正陽                                  | 60,000      | 0.04%    |
| 6. 株式会社P&C                                  | 37,000      | 0.02%    |
| 7. 中島 一彦                                    | 15,000      | 0.01%    |
| 8. 中文産業株式会社                                 | 14,000      | 0.01%    |
| 9. 藤井 正晴                                    | 12,140      | 0.00%    |
| 10. 後藤 由利子                                  | 7,000       | 0.00%    |
| その他 (28名)                                   | 12,300      | 0.00%    |
| 計 38名                                       | 133,205,240 | 100.00%  |

## 5. 役員の氏名または名称

| 役職名     | 氏名または名称 | 代表権の有無 | 常勤・非常勤の別 |
|---------|---------|--------|----------|
| 代表取締役社長 | 小杉 裕    | 有      | 常勤       |
| 取締役     | 山内 沙織   | 無      | 非常勤      |
| 取締役     | 寺西 功    | 無      | 非常勤      |
| 監査役     | 奥 雄一郎   | 無      | 常勤       |